宮城県教委・大川小で新任校長研修

児童遺族「平時の備え重要」

宮城県教委は8日、東日本大震災の津波で児童・教職員計84人が犠牲になった石巻市の震災遺構「大川小」などで、新任校長向けの学校防災研修会を開いた。88人が児童の遺族2人の話に耳を傾け、事前防災の重要性を学んだ。

6年生だった次女みずほさん＝当時(12)＝を亡くした元教員で「大川伝承の会」共同代表の佐藤敏郎さん(59)が旧校舎を案内し、津波到達直前までの約50分間、児童や教職員が校庭にとどまっていた当時の様子などを説明した。

佐藤さんは「ちゃんと避難できた他の学校は、事前に逃げる場所を共有できていた。いざという時に自分で判断するのは難しく、平時から備えることが重要だ」と強調した。

参加した県立支援学校岩沼高等学園の菅原紀子校長(54)は「災害は特別な日に起こるのではないと改めて思い、未来のために何ができるのかを考えさせられた」と話した。

角田市横倉小の渡辺隆一校長(53)は「子どもたちの命を守ることを最優先に考え、よりよい防災態勢を整えられるように学校経営を進めたい」と語った。

県教委は2020年から大川小で新任校長の研修会を開いている。13日は同校や宮城県山元町の震災遺構「中浜小」などで新規採用教員向け研修会を開く。

新任校長らに大川小の教訓を話す佐藤さん(左)